科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	薬用植物学 Pharmaceutical Botany			担当者所属 職名・氏名	薬学研究科　准教授　伊藤　美千穂		
群	健康・スポーツ科目群	分野(分類)	健康・スポーツ科学(発展)	使用言語	日本語		
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月1	配当学年	主として1・2回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

植物は人間の文化の中で利用されることで薬用植物になる。生えているだけでは薬用たりえない。本講義では、ヒトと植物の関わりについて「健康」をキーワードに様々な視点から考え、また体験することを目的とする。具体的には、身近な野山に生息する薬用植物、台所にある香辛料、世界中から集められる医薬品原料植物、麻薬植物、有毒植物などについて、可能な範囲で実物を紹介しながら講義する。

[到達目標]

京大キャンパス内、また身近な野山にある薬用植物に気づけるようになり、その香りや味の安全な体験方法を身につけ、生体に対する作用を理解し、説明することができるようになる。必要に応じて、薬用植物のにおいや色、薬理作用の原因となる化合物について、化学構造式等を用いて説明することができるようになる。

[授業計画と内容]

１）薬用植物学とその関連領域
２）植物を扱う際の基本事項
３）薬学研究科附属薬用植物園の見学
４）薬用植物・天然薬物の特徴
５）薬用植物の分布と生態
６）薬用植物利用の実際
７）薬用効果に関わる成分
８）植物は成分をどうやってつくるのか
９）身の回りの毒
１０）薬毒同源
１１）食素材中の薬素材分子
１２）植物バイオテクノロジー
１３）世界的な薬用植物利用の実際
１４）伝統医療と薬用植物

[履修要件]

特になし

薬用植物学(2)へ続く↓↓↓

薬用植物学(2)

[成績評価の方法・観点]

出席状況30%、小テスト等30%、定期試験40%を目安に成績評価を行う予定。４回以上欠席した者には原則として単位を認めない。小テストでは、主に前回までの授業でだされた課題や要点について問う。定期試験では、各種の薬用植物を五感で知り、また他人に説明できる程度の基礎的知識を備えているか、薬用という視点からみた天然資源について重要事項が理解できているかについてなどが問われる。

[教科書]

使用しない
授業中にノートがとりきれないような複雑な情報（例えば成分の構造式など）はKULASISの「授業サポート」になるべくアップロードするので、各自でダウンロードして利用すること。

[参考書等]

（参考書）
伊藤美千穂、北山隆監修、原島広至著 『生薬単　第３版（最新版）』（丸善）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前に予習や準備が必要な場合は、その都度授業の中で、またはKULASISから指示する。
毎回の授業後に、授業中に回覧した試料や講義で紹介した薬用植物類について、さらに詳しく各自で調べておくことが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

五感で薬用植物を覚えてもらうため、出来るだけ多くの実物を紹介する予定である。
薬学部の学生で、３回生配当の「天然物薬学３（漢方・生薬学）」を履修予定の者は本講義を履修しておくこと。